

防ごう！地震火災！

危険性を**動画で確認**しましょう！



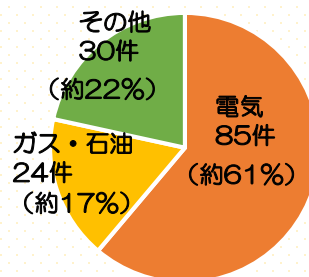
地震火災の特徴について

🔥 大規模な地震が発生した時には、**同時多発的に**火災が発生し、しかも**消防活動にかかる人員が不足**することで、特に住宅密集地などでは延焼が拡大する可能性があります！

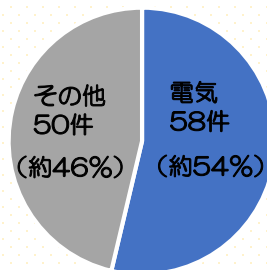
過去の大規模地震でも火災が発生し、その原因の半数以上が「**電気**」に起因するものでした。

過去の大規模地震における火災の発生原因

〓 阪神・淡路大震災 〓



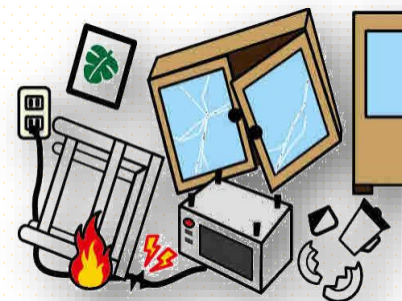
〓 東日本大震災 〓



※「地震時における出火防止対策のあり方に関する調査検討報告書、平成10年（消防庁）」

※日本火災学会誌「2011東日本大震災火災調査報告書」

地震火災の
原因の半数以上が
電気関係です！



通電火災について

地震による停電後、電気が復旧することにより起こる火災を**通電火災**と呼びます。



通電火災の
映像はコチラ



(出典：独立行政法人
製品評価技術基盤機構)

《通電火災のメカニズム》

- 🔥 電気ストーブ等の上に可燃物が覆いかぶさった状態で再通電し、出火！
- 🔥 破損した電気器具や傷ついた配線に再通電し、漏電やショートが生じて出火！
- 🔥 電気製品が水に濡れ、再通電し、トラッキング現象により出火！

地震火災を防ぐポイント！

事前対策について

- 家具等の転倒防止対策（固定）を行う。
- 住まいの耐震性を確保する。
- ストーブ等の暖房機器の周辺は整理し、可燃物を近くに置かない。
- 感震ブレーカーを設置する。



地震発生直後の行動について

- 停電中は電気製品のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜く。
- 石油ストーブやファンヒーターから油漏れの有無を確認する。
- 避難する時はブレーカーを落とす。

地震からしばらくして

- 電気製品等は使用する前に、破損や可燃物が近くにないか確認！
- 水に濡れた電気製品は故障し、再通電すると出火する可能性があるため使用しない！



(出典：東京消防庁)
地震発生時の10のポイント



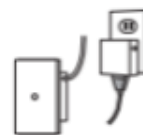
感震ブレーカーとは・・・

感震ブレーカーとは、大きな地震の揺れを感じた際にブレーカー等を自動で遮断する装置です。

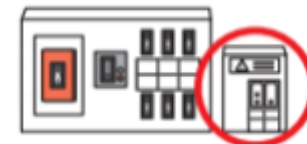
分電盤タイプ（内蔵型）



コンセントタイプ



分電盤タイプ（後付型）



簡易タイプ



感震ブレーカーには色々なタイプがあります。
家庭の状況に応じて適切なものを設置しましょう。

感震ブレーカーの詳細はこちら

(出典：総務省消防庁)



大規模地震が発生した場合、被害を完全に防ぐことは出来ません！
事前の対策、発生時の行動を適切に行い、**少しでも被害を軽減**できるようにしましょう！

お問合せ先：津市消防本部予防課 059-254-0354